

(1) メディア・リテラシーとは



【メディア・リテラシー】

「各種メディアから得られる様々な情報を正しく見分け、情報を主体的に読み解く力」のこと



児童生徒が何かを主体的に学ぼうと思ったとき、さまざまなメディアを通して学びます。メディアは事実を伝えているものであっても、ある一面が切り取られたものだということを理解しておくことが重要です。つまり、児童生徒が主体的に学ぶには、「メディアは、送り手の意図によって構成されている」といった特性を理解して、情報を読み解いたり、発信したりできるメディア・リテラシーの育成が必要となっています。

【多様化するメディア】

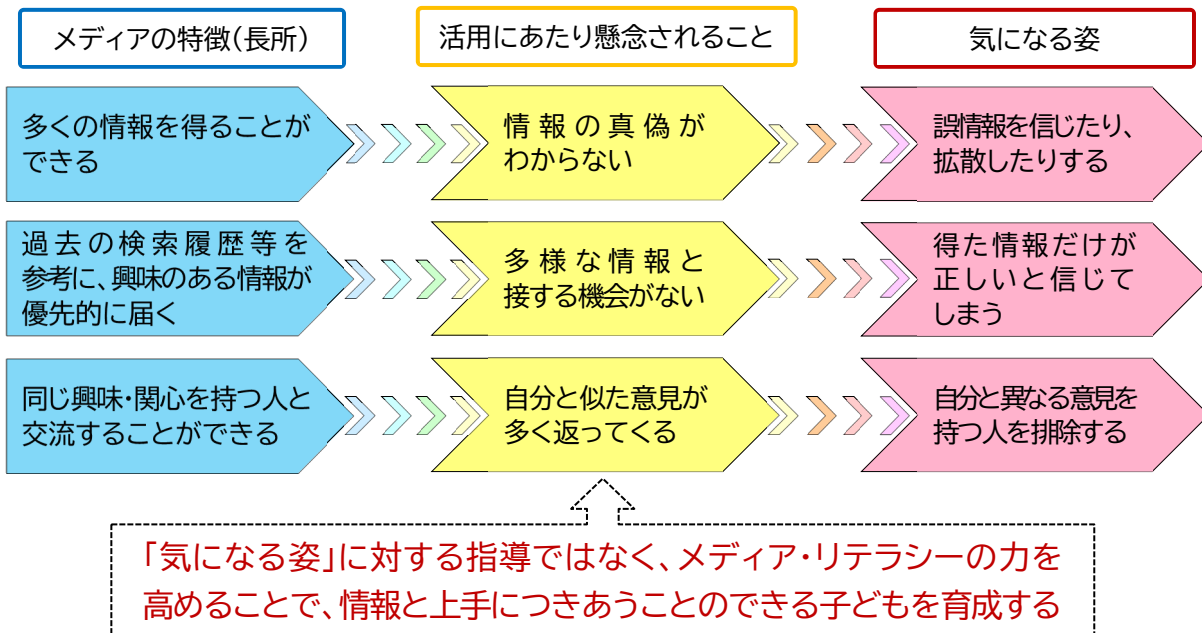
主なメディア	新聞 	テレビ 	ラジオ 	インターネット 
情報の種類	文字・画像	映像・文字・音声	音声	文字・画像・映像・音声
基本的な情報の流れ	一方向 新聞社 ↓ 読者	一方向 テレビ局 ↓ 視聴者	一方向 ラジオ局 ↓ リスナー	双方向 発信者 ↓↑ 受信者
提供スピード	遅い 基本は朝と夕方のみ 号外が発行されることもある	やや遅い 番組制作に時間が必要 ニュース等は速い	やや遅い 番組制作に時間が必要 ニュース等は速い	速い 好きなタイミングで 情報にアクセスできる
保存のしやすさ	やや高い	低い	低い	高い

インターネット上のメディアは既存のメディアの長所を併せ持つとともに、他のメディアでは難しい、「誰もが情報を発信する側になることができる」という強みがあります。

インターネットに接続できる携帯端末が普及したことで、SNS等の利用率が高まるとともに、利用者の低年齢化が進んでいます。

(2) メディア・リテラシーの育成

私たちは、メディアを通してさまざまな価値観や考え方と出会い、自分の考えを形成しています。情報社会において、子どもたちが誤った情報に流されたり、自他の人権を侵害してしまったりすることのないよう、メディア・リテラシーを育成する必要があります。



(3) メディアとのつきあい方を考えるための指導のポイント

① 正しい情報を集める

- ・ どこ(誰)が情報源なのか、他の媒体を確認する。

③ 何が事実で何が意見かを見極める

- ・ 気になるニュースや書き込みを見つけた時、何が事実で何が意見かを意識して読み、客観的な判断を心がける。

② 多角的な情報をもとに自分の考えを持つ

- ・ 尊敬している人、友だち、応援しているグループなどからの情報や、シェアされてくる情報にも注意を払う。
- ・ ある情報に対する肯定的な意見、否定的な意見など、さまざまな価値観にふれ、自分はどうか考えるのかをきちんと持つようにする。

④ 情報発信に伴う責任について考える

- ・ 自他のプライバシーや個人情報を守り、誰かを傷つけるような投稿はしない。

(4) 自分を振り返り、見つめ直す～メディア・リテラシーと人権～

インターネットやSNS上で、人権侵害や差別が起こっています。さまざまな情報にふれて自分の考えを持つことは大切ですが、社会でどのような問題が起こっているのか、人権について正しく学んでいないと、差別に気づくことができないばかりか、無自覚に人を傷つけてしまう恐れもあります。メディア・リテラシーの育成にあたっては、人権についての学習と関連づけることが効果的です。

また、日常会話もメディアの一種と考えると、メディア・リテラシーを高めることで、噂話や決めつけの中に潜む人権侵害に気づき、噂話を止めたり、決めつけた見方をして他者を傷つけてしまうことを防止したりすることにつながります。

多くの人が「人を傷つけてはいけない」「差別はいけない」と知っているにもかかわらず、他者を傷つけたり、人権を奪ったりするような問題が起こっており、その背景には、無意識の偏見や固定観念、集団心理による同調圧力等が関係していると言われています。

一人ひとりのちがいを認め合うことのできる仲間をつくること、声を上げたら問題を解決できたという経験を積むこと等を通して、安心できる環境をつくりましょう。

【「メディア・リテラシーと人権」リーフレット(人権・同和教育課発行)】



小学校版



中学校版